

1. 郡山城跡



天正 8 年（1580）に、筒井順慶が築城。天正 13 年には豊臣秀吉の弟で、大和・紀伊・和泉の三ヶ国を領する豊臣秀長が入城。百万石の本拠にふさわしい城郭に拡張された。天正 19 年に秀長が亡くなると養子の秀保が城主となったが、文禄 4 年（1595）に若くして亡くなり、その後は豊田家五奉行の一人増田長盛が 20 万石で入城した。江戸時代には郡山藩がおかれ、水野氏、松平氏、本多氏などが藩主を務めたが、享保 9 年（1724）に柳澤氏が入り、以後明治維新まで同家が藩主を務めた。近年、追手門・追手門向櫓・東陣櫓などが復元され、天守台も展望施設として整備された。

2. 柳沢文庫



柳澤保承（やすつぐ）が、昭和 35 年（1960）に郷土の有志とともに財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会を設立し、旧柳沢伯爵邸に開設したのが柳沢文庫で、柳澤保承は最後の郡山藩藩主柳澤保申（やすのぶ）の長男。柳澤家歴代藩主の書画や和歌・俳句、郡山藩の公用記録をはじめとする藩政史料などを収蔵し、年三回の展覧会を開催している。

3. 極楽橋



享保 9 年（1724）に入城した柳澤家の初代藩主吉里が名付けたと推定される。建造時期は不明だが、現存最古の正保年間（1644～48）作成の郡山城図に橋が描かれていることから、江戸時代初期には既に架けられていたと考えられる。明治 6 年の廃城令により撤去されたとみられるが、昨年（令和 3 年）3 月、およそ 150 年ぶりに再建された。

4. 郡山城天守台



郡山城の天守台は、築城から 400 年以上が経過し、石垣は変位、変形、破損が進み、崩落する危険が生じたために天守台への立ち入りが禁止されていたが、平成 25 年度から平成 28 年度の 4 ヶ年にわたって石垣の修復と展望施設の整備事業が行われ、平成 29 年（2017）3 月に完成した。なお、郡山城の天守は移築されて二条城の天守となり、さらに淀城の天守になったと伝えられる。

5. 柳澤神社



明治 13 年（1880）、旧郡山藩士らによって創祀された神社で、郡山城本丸跡に鎮座する。祭神は 5 代将軍徳川綱吉の側用人として権勢をふるった柳澤吉保（よしやす）。吉保の長男吉里が柳澤家の初代郡山藩主となった。享保 9 年（1724）、吉里が甲府から郡山に転封となり、以後、柳澤家は 15 万石の大名として、明治維新まで、六代 140 年続した。

6. 大織冠鎌足神社



藤原家の始祖鎌足を祭神とする神社。「大織冠」は大化 3 年（647）から天武天皇 14 年（685）まで用いられた最高の冠位で、与えられたのは、史上鎌足ただ一人。豊臣秀長が郡山城に入城した際、鎮守として城の西北に多武峯（奈良県桜井市）から大織冠社（該山神社）を遷し、「新多武峯」と称したのが始まり。秀長が重病になったため、天正 18 年（1590）に神霊は多武峯に戻されたが、その後も分霊が祀られた。寛政元年（1789）、三代藩主柳澤保光によって現社地へ遷された。

7. 大和民俗公園（奈良県立民俗博物館）



住宅や県の文化財に指定される旧鹿沼家住宅、旧木村家住宅など、貴重な建造物も含まれている。また園内の奈良県立民俗博物館では、奈良で暮らす人々が改良と工夫を重ねながら伝えてきた大正～昭和初期の生活用具・農具などをわかりやすく展示している。

8. 割塚古墳



昭和 43 年（1986）に宅地造成に伴い調査された古墳で、直径 49 メートル、高さ 4.5 メートルの大形円墳。埋葬施設は横穴式石室で、全長は 13.6 メートル。天井石を含めた上半部の石材は抜き取られており、玄室（げんしつ）の中央に割式（くりぬきしき）の家型石棺が安置されている。石棺内から鏡、耳飾りなど、石棺の周囲からは馬具、挂甲、鉄鍬、須恵器などが出土し、これらの出土遺物などから 6 世紀前半の築造と考えられている。

9. 小泉城跡（高林庵）



提供：北川央

中世にこの地域を支配した地侍小泉氏の居館跡で、のち天正 13 年（1585）に豊臣秀長が郡山城に入部した時、家老の羽田正親（長門守）が、ここを本拠とした。大坂夏の陣後の元和 9 年（1623）、片桐貞隆が 1 万 6 千石の小泉藩主となると、以後、明治維新まで 12 代にわたって小泉藩主片桐家の居城となった。「片桐城」とも呼ばれる。二代藩主片桐貞昌は茶人大名「片桐石州」として有名で、千利休亡き後、天下人（関白や将軍など）の茶道指南役（茶頭）は古田維部、小堀遠州、片桐石州へと受け継がれた。現在は、石州流茶道宗家本部、財団法人「高林庵」となっており、「片桐家」の住まいでもある。

10. 慈光院



提供：北川央

寛文 3 年（1663）小泉藩二代目藩主の片桐貞昌（石州）が、父で初代藩主の貞隆（片桐且元の弟）の菩提を弔うために創建した臨済宗大徳寺派の寺。開山には大徳寺 185 世玉舟宗瑞を迎えた。書院及び茶室「高林庵」は国の重要文化財に指定され、庭園は国の史跡・名勝に指定されている。また山門は「茨木門」と呼ばれ、片桐且元・貞隆兄弟の居城であった茨木城（大阪府茨木市）から移築されたと伝えられる。拝観料：1 千円（抹茶接待付き）

11. 大納言塚



提供：北川央

豊臣秀吉の異父弟で、「大和納言」と呼ばれた郡山城主豊臣秀長の墓所。秀長は「内々の儀は宗易（千利休）、公儀の事は宰相（豊田秀長）存じ候」（『大友家文書録』）と記されるように、千利休と両輪となって秀吉の豊田政権を支えた。秀長は、天正 19 年（1591）正月 22 日に郡山城内で没し、ここに葬られた。当初は菩提寺である大光院が建てていたが、養子秀保が若くして亡くなり、郡山城主の豊田家が断絶したため、大光院は京都・大徳寺の境内に移転し、位牌は東光寺（のちの春岳院）に移された。そのため墓所は荒廃したが、安永 6 年（1777）、春岳院の僧、栄隆（えいりゅう）や訓祥（くんしょう）が郡山町中の人々と協力して周囲の土堀をつくり、五輪塔を建立した。高さは 2 メートルで、地輪の表面には秀長の戒名が刻まれている。

12. 郡山八幡神社



提供：北川央

室町時代には既に存在が確認できる由緒ある古神社で、郡山城南を守る役割を担い、歴代藩主の崇敬をうけてきた。御祭神は誉田別命（応神天皇）、比売大神、氣長足媛命（神功皇后）で、武家を守護する「八幡神」として信仰されてきた。また郡山八幡神社は別名「クラブ神社」とも呼ばれ、野球上達の祈願、クラブ祭りの開催、クラブ供養といったユニークな活動を行っている。

13. 町家物語館



提供：北川央

遊郭として建てられた町屋建築で、大正 11 年（1922）に納屋と蔵が、大正 13 年（1924）に本館と座敷棟が建てられた。当時としては珍しい木造三階建てで、内部には意匠を凝らした欄間や上質な数寄屋造りの小部屋など、特殊な建築技法を随所に取り入れ、遊郭ならではの造形美を創り出している。昭和 33 年（1958）に遊郭を廃棄したのち下宿となり、客間は貸間として利用された。堅固な構造で、良好な保存状態のまま現在に至っており、質実で洗練された佇まいは今もなお、当時の上流花街の雰囲気を感じている。平成 26 年（2014）に国の登録有形文化財になった。入館無料

14. 源九郎稲荷神社



提供：北川央

兄頼朝と対立した源義経が、その追手から逃れて吉野に落ちのびた時、白狐が佐藤忠信に化けて静御前を送り届けたので、義経が白狐に自らの名を与えて、「源九郎」と名乗るのを許したと伝えられる。天正 13 年（1585）豊臣秀長が郡山城に入部の際、長安寺村（現在の大和郡山市長安寺町）の宝誉という僧侶の夢枕に「源九郎」を名乗る白狐が老翁の姿で現れ、守護神となって城を守るであろうと告げ、宝誉が秀長にその旨を伝えたので、秀長は城南に洞泉寺を建立して宝誉を住職とし、その境内に源九郎稲荷を祀ったという。享保 4 年（1719）に現社地に遷座。伏見稲荷、豊川稲荷と並び、日本三大稲荷の一つに数えられる。

15. 洞泉寺



提供：北川央

天正 13 年（1585）に郡山城主だった豊臣秀長が建立した浄土宗の寺。本尊は木造の阿弥陀如来で、両脇侍立像とともに、国の重要文化財に指定されており、鎌倉時代の大師・快慶の作と伝えられる。（非公開）

16. 外堀緑地南門



提供：北川央

17. 外堀緑地



提供：北川央

外堀は、豊臣秀長の養子秀保の没後、文禄 4 年（1595）に入部した豊田家五奉行の一人増田長盛が築いたもので、総延長は約 5.5 km に及んだ。近年、水路や白壁の築地、敷石の道がある緑地公園として整備され、かつては 57ヶ所もあった木戸の冠木門をイメージした北門も建てられている。

18. 修羅と石 展示場



提供：北川央

郡山城天守台展望施設完成記念事業としてお城まつりの間に実施された「修羅引き」の際、実際に使用された「修羅」と石が展示されている。往時の築城工事の苦勞が偲ばれる。大石を運ぶ大きな木を「修羅」と呼ぶのは、古代インドで正義を司る神「阿修羅」が、力を司る神「帝釈天」に戦いを挑み、何事にも動じることのなかった「帝釈天」を動揺させたことに因み、帝釈（たいしゃく＝大石）を動かす大きな木を「修羅（阿修羅）」と呼ぶようになったという。

19. 春岳院



提供：北川央

高野山真言宗の寺で、開基は未詳。もとは東光寺と称した。豊臣秀長の墓である大納言塚と秀長の位牌は大光院が管理していたが、大光院が京都・大徳寺境内に移転した際、大納言塚の管理と位牌を託された。以来、秀長の菩提寺となった。秀長は、城下町郡山に、地租を免除するかわりに、治安維持や防火、訴訟の取り扱いなどを町ごとに請け負う自治制度を敷き、これを「箱本制度」と呼んだが、春岳院にはこの「箱本制度」の関係資料（御朱印箱及同文書）が所蔵され、奈良県の指定文化財になっているほか、郡山市指定文化財の豊臣秀長画像なども伝来する。（非公開）

第2回 奈良／大和郡山エリア 2022年11月5日

主催 産経新聞社 特別協賛 LION

協力 大阪城天守閣、大阪府ウォーキング協会、スーパースポーツゼビオ

第2回大会後援 奈良県、大和郡山市、奈良県教育委員会、大和郡山市教育委員会、(一財)奈良県ビジターズビューロー、(一社)大和郡山市観光協会、近畿日本鉄道(株)、歴史街道推進協議会